

男女共同参画懇談会 働きやすい環境づくり

7月31日、市内の会社経営者6名と市長を交えて「働きやすい環境づくり」をテーマに懇談会を開催しました。



笹沼トミさん

(建築・不動産)

会社のトップが責任をもち、謙虚さ、誠実さを失わないことが大切です。儲けよりも、人に喜んでもらうことを常に考えて仕事をしています。それが、お客様のためであり、また、会社のためであり、そして社員の働きがいになっていくと思います。

高田勝雄さん(製缶業)

社長が音頭をとるのではなく、自分たちで工夫をして仕事をする雰囲気をつくるように心がけています。製造業のこだわりは、いいものを作ることです。「いいものを作るために、社員自らが工夫をする」そのための雰囲気づくりが経営者の役目であり、働きやすい職場づくりだと考えます。

丸山吉則さん(運輸業)

働いている社員の資質・人柄が仕事につながっていくので、社員教育に力を入れています。運送業では、女性ドライバーが定着し、評判も良いです。クリーンルーム関連の仕事(半導体製造時の空気清浄の測定)では、女性の活躍が目覚ましいです。現在は測定値を基に報告書を作成するのが、主な業務ですが、今後、測定業務も期待されます。

角井信行さん

(家電修理販売)

デジタル化が進んでいる世の中でこそ、人と人のかかわりが大切だと思います。「若い社員を育成し、シニア社員の技術を生かし、女性社員の意見を聞く」老若男女すべての社員に風通しのよい職場を目指しています。

古姓よしえさん(工務店)

大工の世界は、まだまだ男性が中心の社会です。その中で女性経営者として配慮していることは、職人を大事にするということです。私自身は直接現場に向くことはほとんどありませんが、現場で働いている職人を大切にいくことで働きやすい環境を作っていければと考えています。

鎌田千恵さん

(呉服・ファッション小売)

12年前に仲間4人で会社を起しました。「お客様とのパイプを太くする」ことを大切に仕事をしていきます。従業員には年齢制限はありません。社員同士、また、お客様とよりよい人間関係を作っていくことが、ポイントだと考えます。



市長

皆さんの考えや取り組みを伺うことができ、大変参考になりました。今後、社会が大きく変化していく中で、企業が力を備えていくには、男女がともに働きやすい環境づくり、また、いかに女性の力を生かしていくかが、鍵になると思います。これは、男女共同参画社会の実現につながるものです。みなさんよろしく願います。

特集

仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)とは

ワーク・ライフ・バランスという言葉が耳にしたことはありませんか？
今、仕事と生活の調和を意味するワーク・ライフ・バランスが、注目を集めています。

なぜ、今、仕事と生活の調和が必要なのでしょう？

現在、私たちの仕事や生活における希望は多様化しています。子育てをしながら仕事をしたい人・キャリアアップのために勉強をしながら仕事をしたい人・親の介護をしながら仕事をしたい人・ボランティアや趣味ができる時間を確保しながら仕事をしたい人など…

しかし、現実はどうでしょう？男性は仕事優先となり、家事・育児・地域活動などと思うように関わることができず、女性は、家庭責任が重く、特に育児期においては、働きたくとも働けない方が多い状況です。

こうした問題を解決し、老若男女あらゆる人々が、人生の各段階においてさまざまな活動を自分の希望するバランスで実現でき、「仕事の充実」と「仕事以外の生活の充実」の好循環を生む社会が必要となっています。

仕事と生活の調和は、社会・企業にとっても不可欠です。仕事と生活の両方を大事にすることは、

社会や企業にとっても重要です。社会にとっては、子育てしやすい環境づくりや働く人の地域活動への参加という観点などから、また、企業にとっては、社員の満足度や意欲の向上、優秀な人材の確保、多様な人々を活かして競争力を強化する観点などからも不可欠です。

仕事と生活の調和の実現に向けて

国では、仕事と生活の調和の実現に向けて平成19年12月に「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)憲章」および「仕事と生活の調和推進のための行動計画」が策定されました。これらにおいて、生活と仕事の調和の推進により

- ① 就労による経済的自立が可能な社会
- ② 健康で豊かな生活のための時間が確保できる社会
- ③ 多様な働き方・生き方が選択できる社会

を目指すこととしています。また、10年後(2017年)にむけての数値目標も設定されました。



年次有給休暇取得率	
現状	46.6%
10年後	完全取得

自己啓発を行っている労働者の割合(正社員)	
現状	6.2%
10年後	70%



6歳未満の子どもをもつ男性の育児・家事関連時間(1日あたり)	
現状	60分
10年後	2時間30分

